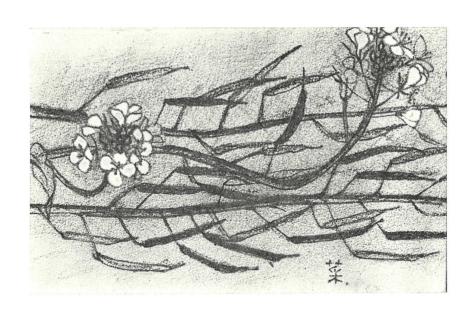


约·文 住谷悦治



え と 文 村上菜々子

太 陽 0 包 CJ

勝ちに生れ出る。 様にくすぐられて笑い出す。殼を割り土を払い我 小さな種の赤かぶもすべての物が動き出す。お日 太陽の季節が来た。枯れ枝だったあかしやも、

落る。月の光がマーガレットの白さをもっと白く の毛布の上を滑り落ちる。暖かい太陽の滴が滑り る。雨の日は、その銀色の真珠の玉がビロード草 花のほころぶ気色がする。新しい緑の匂いがす っそう青臭い。ヒヤシンスは、各々の花弁をかわ 染める時、新しい緑の匂いはいっそう新鮮で、 ったい笑い声が聞える。殻や土の動く音がする。 や光る柿の葉っぱ。真赤な小さな紅葉の芽。 身。スイトピーは、ビーナスの口紅の跡。つやつ り終えた神様に、筆先の絵具をねだったような、 いくカールさせた小さな花の花束である。空を塗 ひなげしやデージの植わった私の庭にもくすぐ 私は、こんな時太陽の匂いを感じる。 い桂の葉。大きく広がるぶどうのつる。 金色のラッパ水仙は、太陽の小さな分

(昭三四女子高卒・画家)